

巻頭言

今、木々も新しい葉をつけ始め、生命の息吹を感じずる季節となり、皆様方には益々御活躍のこととお喜び申し上げます。

当農業試験研究センターでは、平成25年度を迎え、新たな体制で試験研究に取り組み始めたところです。

ところで、当センターで開発した米品種「さがびより」は、今年の2月に、米の食味ランキングで3年連続して“特A”評価を受けました。開発した機関としては、安堵の思いを感じるとともに、ここまで育てていただいた生産農家をはじめ関係する皆様方に心より感謝申し上げますところであります。

さて、当センターでは、得られた研究成果を県民の皆様におつなぎするために、情報の発信に努めているところですが、「農業試験研究センターでは何をしているのかがよく分からない」との声も聞こえてきます。確かに、発信している情報はその性格上、やや堅苦しいものになっていることは否めません。また、情報のデジタル化に伴い、パソコンを介さないと目に入りにくい状況でもあります。

そこで、当センターの取組などをより多くの方にお知らせするために、デジタル化には逆行するかもしれませんが、「分かりやすい」「気軽に読める」「目に留まりやすい」をコンセプトとして「農業試験研究センターニュース」を発行することとしました。

今回は、第1号として「まずは発行してみる」ことに重きを置いたため、コンセプトどおりにはなっていないかと思いますが、今後は、発行時期や回数、内容等をさらに検討し、期待していただけるような情報の継続的な発信に努めますので、読まれた感想などをお寄せいただければ幸いです。

今後とも皆様方の御支援をよろしくお願いいたします。



所長 松尾 孝則

研究成果の紹介

米麦大豆に野菜を組み合わせた営農計画の作成を支援するソフトを開発しました

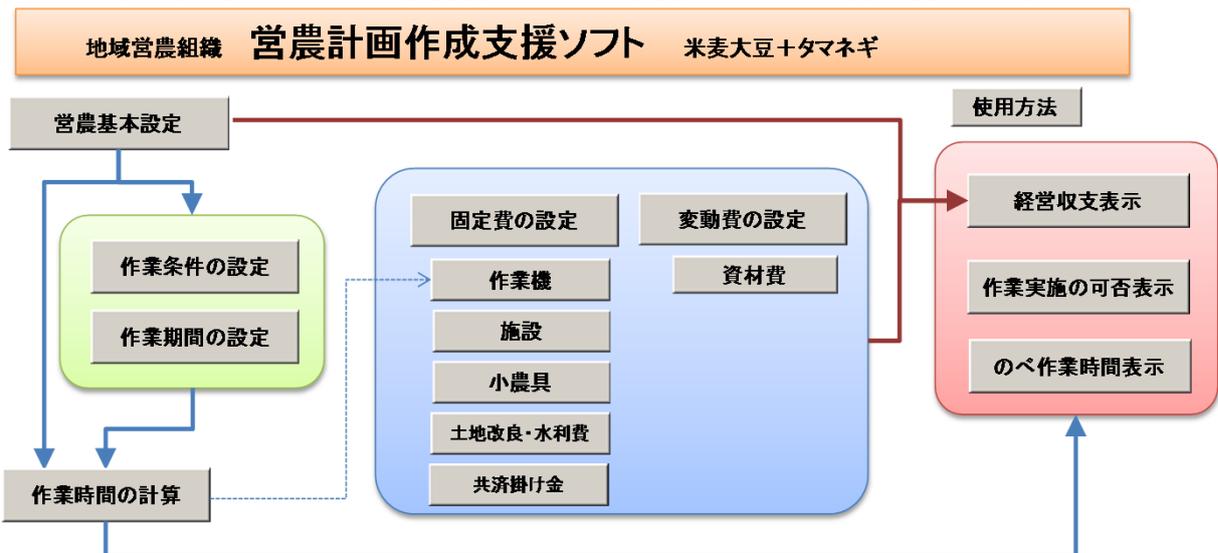
【情報システム研究担当 TEL:0952-45-2142】

本県農業の重要な担い手である地域営農組織を対象に、米麦大豆にタマネギまたはキャベツを加えた作付体系において、設定した面積での作業実施の可否や経営収支の試算を行い、より良い営農計画の作成を支援するソフトを開発しました。

設定する条件は、作付面積、10a当たり生産量と単価、労働条件からなる営農基本条件、作業能率や使用機械、作業期間などを設定する作業条件、作業機械や施設装備などからなる固定費と種苗費などからなる変動費です。

なお、このソフトには、あらかじめ標準的な条件を入力していますので、作付面積、10a当たり生産量・単価、労働力の入力のみの簡便な操作で営農計画の試算ができます。

このソフトの入手方法等については、情報システム研究担当までお問い合わせください。



据置株を利用した中山間地イチゴの省力栽培技術を開発しました

三瀬分場では、イチゴの収穫が終了した後も植え替えずに芽の整理を行い、そのまま株を維持し、定植作業や育苗管理の労力を大幅に省きながら2年目も収穫できる据置株を利用した栽培技術を開発しました。

中山間地の普通のイチゴ栽培は、早出しを目的に、定植を8月中旬に行い、10月から収穫します。新技術の据置株では、2年目の6月に芽や果房の整理を行い、その後、8月から収穫が始まります。年内収量も8月に定植した慣行栽培と同等かそれ以上となりました。据置株は、2年目の基肥はやらず、灌水時に液肥で追肥する方法を行います。



【山間畑作研究担当 TEL:0952-56-2040】

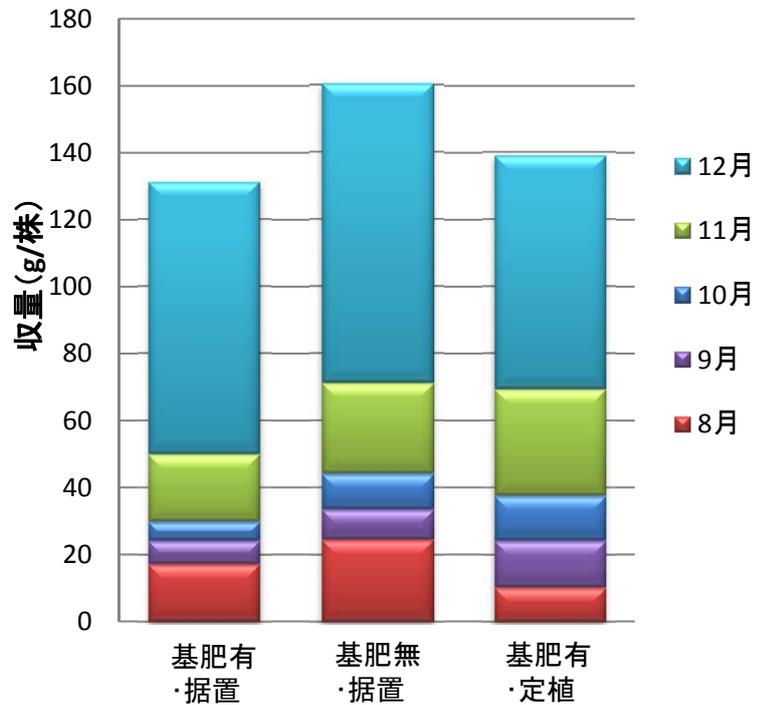


図 据置株と定植株の月別収量

ナス品種「筑陽」の高昼温・低夜温管理により暖房費を削減できることを明らかにしました

【野菜研究担当 TEL:0952-45-2143】

ナス「筑陽」の促成作型において、日中にハウスを閉めこみ、管理温度を慣行より4～5℃高め、夜間の最低温度を5℃低くすることで、栽培期間中の暖房費を慣行管理に比べ、約2割に低減できます。このときの総収量および商品化率や上物率等の品質は、慣行と同等です。

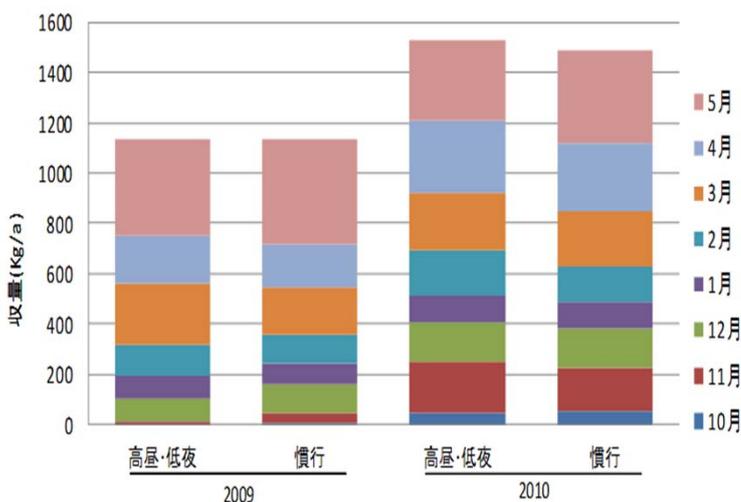


図1 高昼温・低夜温管理が「筑陽」の月別収量に及ぼす影響



表1 高昼温・低夜温管理によるハウス20a当たり燃油コスト削減効果

管理方法	最低夜温 (°C)	ハウス面積 (a)	燃油消費量 (KL)	燃油コスト (万円)	慣行対比 (%)
高昼温・低夜温	7	20	3.05	25.9	18.2
慣行	12	20	16.80	142.8	100

注)試算には、野菜茶業研究所が作成した温室暖房燃料消費試算ツール(試用版、Ver.0.90)を用いた。被覆資材はPOフィルム、内張りは2重、場所は佐賀県内、期間は11月から4月まで、燃油価格は85円/Lとして試算した。

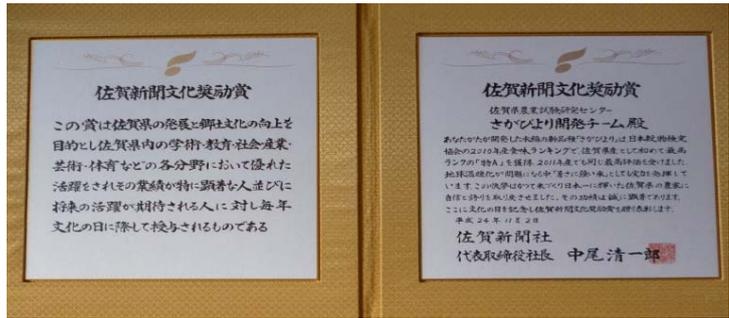
【「さがびより」開発チームへの佐賀新聞社文化奨励賞を励みに頑張ります】

《作物育種研究担当》

平成24年11月2日、第57回佐賀新聞文化賞の贈呈式が行われ、農業試験研究センター「さがびより」開発チームが文化奨励賞を受けました。

水稲「さがびより」は、日本穀物検体協会の食味ランキングで3年連続の「特A」を受けるなど高く評価されました。これは、「さがびより」が、平成20年に育成されて以来、県、農業団体、生産者が一体となって生産振興に取り組んだ結果です。

今回の受賞を励みに、皆様の御期待に応えるよう、更なる品種開発に努めていきます。



佐賀新聞文化奨励賞

【第6回食用ネギ類国際シンポジウムが開催されました】

《白石分場》



タマネギ・ネギ全自動定植機デモンストレーション

昨年度、第6回食用ネギ類国際シンポジウムが、国内において初めてアクロス福岡で開催され、世界21カ国からの参加がありました。産地見学は、佐賀・福岡両県で行われました。

佐賀県では、タマネギ選果施設の見学が行われれるとともに、白石分場では、タマネギ・ネギ全自動定植機のデモンストレーションが行われました。

直播き栽培しか見たことのない海外研究者の多くは巧妙に苗を取っては植え付けていく定植機を見て、感嘆の声をあげていました。

【さが有機農業塾を開催しています】

《有機農業研究担当》

県では、「さが有機農業塾」を農業試験研究センターや佐賀市内の現地等で、水稲や露地野菜等を対象として開催しています。



有機農業塾 講演



技術研修

有機農業研究担当は、農業者に有機農業の技術開発や現地実証研究の成果を紹介、ならびに技術指導を行っています。

平成25年度の新しい試験研究課題の紹介

課題名	期間	研究担当
パン・中華めん用小麦の安定生産技術の確立	H25～27	作物研究担当
集落営農組織における法人経営モデルの提示	H25～26	企画経営研究担当
立枯性病害による被害が生じないイチゴ育苗期の病害虫総合防除体系の確立	H25～27	病害虫農薬研究担当
アスパラガス半促成栽培における栄養診断および茎葉管理技術の開発	H25～27	野菜研究担当
雨よけハウレンソウにおけるケナガコナダニの防除技術の開発	H25～27	山間畑作研究担当
県独自ブランド野菜新品種育成のための有用遺伝資源の収集・評価	H25～27	野菜育種研究担当
施設野菜の超多収生産を目指した新たな環境制御技術の開発	H25	野菜研究担当

各部・分場の紹介

企画情報部(企画経営研究担当、情報システム研究担当)

- ・農林業に係る試験研究の連絡・調整や共同研究の推進
- ・農業経営の改善に関する研究や農業情報システムに関する研究

野菜・花き部

(野菜育種研究担当、野菜研究担当、花き研究担当)

- ・野菜や花き等の新品種の開発や改良の研究
- ・野菜や花き等の生理生態や栽培技術に関する研究
- ・施設の利用技術等の研究

作物部(作物育種研究担当、作物研究担当)

- ・水稲、麦類、大豆等の新品種の開発や改良の研究
- ・水稲等の生理生態や栽培技術に関する研究
- ・農業機械の開発等の研究

有機・環境農業部

(有機農業研究担当、土壌・肥料研究担当、病害虫農薬研究担当)

- ・化学合成農薬や化学肥料を使わない水稲や野菜等の有機栽培の研究
- ・土壌保全や施肥改善に関する研究
- ・病害虫の生態やその防除に関する研究



三瀬分場

三瀬分場(TEL:0952-56-2040)

(山間稲作研究担当、
山間畑作研究担当)

- ・山間地における稲作や野菜等の畑作の栽培に関する研究



本場



白石分場

白石分場(TEL:0952-84-5169)

- ・佐賀平野特有の重粘土水田及び干拓地におけるタマネギ等の野菜栽培に関する研究

○研究員の資質向上のための長期研修

伊東寛史(野菜育種研究担当 副主査)

研修期間:平成24年10月1日～平成25年2月28日

研修先:(独)農研機構 野菜茶業研究所

研修テーマ:イチゴ素材開発に関する研究

森 敬亮(作物育種研究担当 副主査)

研修期間:平成25年2月12日～3月12日

研修先:(独)農研機構 作物研究所

研修テーマ:水稲のDNAマーカーによる選抜技術の習得

発行所

佐賀県農業試験研究センター

(企画情報部 企画経営研究担当)

〒840-2205 佐賀県佐賀市川副町南里1088

TEL 0952-45-2142

FAX 0952-45-8801

E-mail nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

佐賀県農業試験研究センター 検索

当ニュース記事を利用される場合は、御一報ください。